



くすのき学習での学びから ~五感を使ってくすのきの秘密を発見!~

6月5日、今年度の「くすのき学習」の第1回目が行われました。今年度も4年生が1年間をかけて、学校のシンボルである「くすのき」についての学びを深めていきます。今年度も、自然観察指導員の藤川さんと宮本さんにお世話になります。

第1回目のめあては、まず「くすのきについてよく知ること」です。子どもたちは毎日くすのきを見ていますが、じっくり観察したことはありません。「今日は、くすのきの大きさや葉っぱ、枝のことをよく調べてみましょう」という藤川さんの言葉通り、五感を使ってたくさん新しい発見をしてほしいと願い、活動がスタートしました。

まずは校庭に出て、くすのきの幹の太さを測ってみました。普通にメジャーで測るのではなく、子どもたちが両手をいっぱい広げて幹をぐるっと囲んでいきます。宮本さんから「人が腕をいっぱい広げた長さ（ひとひろ）は、自分の身長とだいたい同じです」と教えてもらったからです。みんなの身長を合計すると、計算上は「658センチ」。実際にメジャーで測ってみると「610センチ」で、なかなかいい線にしていることにみんなが驚きました。



両手をいっぱい広げ、幹の太さを測ると、なんと！658cmでした。

次は、枝の広がり調べです。枝が横に大きく広がっている真下の位置に子どもたちを立たせ、そこを線でぐるっと繋いでみました。その圧倒的な大きさにびっくり！いつもくすのきの下が涼しい日陰になる理由が、大いに納得できました。面白かったのは、子どもたちがその枝の広がりを示す線に沿って、ぐるぐると走り始めたことです。体を使って、枝の広がりスケールを実感しようとするユニークな発想に脱帽でした。また、「枝が張っている所まで根も張っているんですよ」と教えてもらうと、「ぼくたちはいつも根の上で体育をしたり、遊んだりしているんだね。」と驚きの反応があったこともおもしろかったです。

後半は、葉っぱや枝を教室に持ち帰ってじっくり観察しました。普段は見過ごしがちな葉や枝ですが、色や手触り、匂いを詳しく調べていきます。葉っぱをよく見た子どもたちからは、「緑、黄緑、赤と、いろんな色がある!」「手触りがつるつるしている」「レモンみたいな匂いがする」と声が上がりました。

さらに枝の観察では、「枝を折ってみると、ミントのような匂いがした」「折る場所によって匂いが違うよ」という驚きの声も。自分たちの手や鼻で直接経験することで、たくさんの新しい発見をすることができました。

くすのき学習は、2学期、3学期へと続いていきます。これから4年生の子どもたちが、くすのきからどんな深い学びを紡ぎ出していくのか、今からとても楽しみです。



子どもたちの観察を優しく見届ける藤川さん（左）と宮本さん（右）

ジャンボタニシ駆除に挑戦！ ～大切な稲を守り、秋の収穫へ～



ジャンボタニシをしっかり駆除することができました。

5月1日に田植えの体験をした5年生の子どもたち。あれから40日、稲もすくすくと育ち、大きくなってきました。これから稲がさらに成長していく中で、天敵となるのが「ジャンボタニシ」という外来種です。放っておくと、柔らかい稲の苗を食べてしまい、お米の収穫に大きな被害を及ぼします。そこで6月9日、「東大淀を守る会」の方々に教えてもらいながら、ジャンボタニシの駆除に挑戦しました。

よく見ると、稲の根本に鮮やかなオレンジ色の卵がついています。これがタニシの卵です。「卵を見つけたら、水の中に落としてください。それで駆除（孵化を防止）できます。水中にいるタニシはよく見て採ってください。

後で数を数えましょう」と教えてもらい、いよいよ駆除がスタートしました。

最初は1つを見つけるのにも苦勞していた子どもたちですが、ちょっとコツをつかむと、泥の中に目を凝らしてどんどん捕まえられるようになっていきました。大きくなった稲の間をゆっくりと歩きながら、タニシを次々とバケツへ入れていきます。時には、泥で滑って転んだり、服がびしょ濡れになったりすることもありましたが、泥だらけの服で活動する子どもたちの姿は、どこか頼もしく、誇らしげに見えました。最後に、みんなで採ったタニシの数を数えてみるとなんと全部で501個！ このたくさんの天敵から、自分たちの手で大切な稲を守り抜くことができました。

これからは、さらに力強く成長していく稲を観察しながら、秋の収穫の時を楽しみに待ちたいと思います。ご多用の中、温かくご指導いただきました「東大淀を守る会」の皆様、本当にありがとうございました。